

# 概要報告

実施期日	7月28日(火)【午前】
部会名	小学校 総則部会

## テーマ

『かかわりの知』をもとめて

～たてわり活動を通じた他学年との学び合い～

## 提案概要

### ●課題設定の理由

提案校では、「集団の中でお互いを認め合ったりコミュニケーションをとったりする力に乏しい。」「自分で感じ、判断して見通しをもって行動したり対応したりする力が不足している。」という2点を児童の実態として捉え、当該市学校教育ビジョンの3つの知にある「かかわりの知」を育てることが必要であると考えた。

その『知』を育てる具体的な3つの力を『コミュニケーション能力・認め合う力・課題解決能力』と位置づけ、かかわりの知を育てるためには、学級や学年をこえたかかわりも必要だと考え、異年齢集団でより深いかかわりを作ることをめざした(たてわり活動の充実)。今までにあったような、受動的な活動だけでは難しいと考え、異学年のかかわり合いを意識した実践「たてわり授業」を行うことにした。

### ●実践の概要

- ①たてわり教室配置・・・学年ごとではなく、たてわりの組ごとに教室を配置し、普段から顔を見合わせるフロアーにすることで交流を盛んに。(運動会の応援練習や6年生を送る行事もフロアーで)
- ②たてわり掃除(こまピカタイム)／たてわり給食・・・月末1週間は、1～6年生8人程度の班で各掃除場所を清掃。その週に1度は給食を一緒に食べる。
- ③たてわり遠足・・・親水公園をフィールドにウォークラリーを計画、実施。6年生中心にコースや活動内容を考える。
- ④たてわり授業・・・1組2組3組グループで、それぞれ授業研究を行い、たてわりのクラスでの年間を通じた授業実践を行う。

☆1組グループ「学校をデザインしよう～夢の学校プロジェクト」(休み時間をふやそう／夜の学校体験)

☆2組グループ「世界は一つ」(平和への思いを込めた劇作り)

☆3組グループ「音の芸人～見えないものを見えるものへ～」(プラスチックアニメ)

### ●成果と課題

- ・それぞれの班でかかわり合いを深め、きちんとした人間関係ができてきた。
- ・班で助け合う気持ちや、仲間意識が出てきた。
- ・相手の意見や良いところを認めることができた。
- ・もっと遊ぶ時間を作るとよかった。
- ・1年間ずっと同じ班で活動したので、班の中の人間関係は深まったが、他の班の児童とはそれほど深いかかわりは見られなかった。

## 質疑概要

Q：授業時数に関わる部分でのたてわり活動は、職員の中での共通理解が難しいところだと思うが、たてわり授業の時数は何の教科でとっているのか。

A：「たてわり授業」をやることになったときに、教科について様々な意見が出た。一昨年は、目標設定が低・中・高で似ているので、内容項目によっては、「たてわり授業」ができるのでは？ということで、道徳で「たてわり授業」を行った。しかし、発達段階が違うという難しさがあり、昨年度から総合で実施することになった。

Q：グループの分け方をもう少し詳しく教えてほしい。

A：～3組グループの場合～

6年3組・5年3組・4年3組・3年3組、各クラスの児童を大体6人ずつに分ける。6年3組の教室に行く児童は、63A・63B・63C・63D・63E・63F、5年3組の教室に行く児童は、53A・53B・53C・53D・53E・53Fとなる。

(63Aは、6年3組のA班ということ)1・2年生も必要に応じてたてわりクラスに集まるので、同様に分けてある。

Q：休み時間、子ども達は自然に異学年で遊ぶようになってきているか。

A：キックベースを2年生から6年生までが一緒にやっている場面はよく見られる。6年生は1年生の面倒を見るのが

好きなので、一緒に手をつないで校庭に出たりしている。

Q：一昨年、道徳でたてわり授業を行ったということだが、どんなふうに進めたのか？

A：一言では言えない。授業形態としては、たてわりと同じように、6年3組から3年3組まで3組グループの先生達で、一つのお話を作って、4クラスで同じ指導案で授業を行った。ロールプレイングで行った。

Q：活動中の見取りは、その子の成長や活動を担任にどうやって伝えているのか？

A：振り返りシートを作っている。班名、名前を書いてリーダーに提出する。リーダーは、たてわりノートを持っていて、毎回ノートに貼っていく。6年生はシートを見て気がついたことがあれば書いていく。教員は自分のセカンドクラスのような感じで自分のたてわりクラスの子どもの名前や顔を覚え、情報交換を密にしている。

## 研究協議概要

### 年間計画の中で有効な異学年交流を行う場面や必要なことは何か？

#### 場面

#### 日常的に行える事

無理せずに授業で行える範囲で行う。

- ・1、6年の兄弟クラスの交流
- ・低学年への読み聞かせ
- ・異学年の2クラスでの活動
- 1・2年の学校探検
- 6年から5年へクラブ・委員会紹介

学校全体ではなく、クラス単位で行うと、取り組みやすい。

#### 行事

- ・運動会のクラスカラー
- ・遠足(自然・社会体験)
- ・子ども祭(スタンプラリーで異学年のお店に行く)

計画・準備に時間がかかる

「日常的に行える事」を充実させると、準備時間の短縮、異学年の関わりが密になる。

#### 必要なこと

#### 目的意識・主体性

運動会での勝利  
授業との関連

#### 自己有用感・達成感

↓ 下学年からの評価 → 責任感

#### 良い物を残して行く

↓ 教師間での共有・学年ノート  
年間計画の見直し

#### 校内研究

子ども

教師

◆ワールドカフェ方式のグループ協議だったため、その中の一例を掲載します。

## まとめ概要

- ・提案校は24～26年度当該市の研究指定を受け、昨年発表を行った。
- ・授業では何ができるか、特別活動では何ができるか、道徳ではどんなことができるか等、色々考えて研究に取り組んでもらった。
- ・小学校の運動会・中学校の体育祭では、たてわりを取り入れて子ども達の活動にしているように思う。折角学校には異学年の子ども達がいるので、その中でできることを考えていきたい。
- ・毎年学年が入れ替わり、自分が上級生になれば、新入生が入ってくる中で、新しい仲間とどのようにコミュニケーションをとっていくか、そういう関わりが、今の時代、大事なのではないか。
- ・6年生がリーダーシップをとって関わっていかねばならないということ、関わるものの関係性というふうにと考えると、6年生はリーダーシップをとっていく中で関係性が保てる。それについていく下級生はどういう喜びをもてるか、下級生の喜びを考えてあげなければならない。
- ・たてわりの時間、先生方がどう子どもと関われるのか、子どもの要望に対してどう対応できるのか、異学年交流をするというのは、職員のあり方とともに、子ども達の喜びも含めて考えると素晴らしいものになる。
- ・学習指導要領解説総則編P14「教育課程の編成の主体」の中に、「学校は組織体であるから、教育課程の編成作業は、当然のことながら全教職員の協力の下に行わなければならない・・・」とある。最近『学校組織マネジメント』という言葉を目にする。学校長の教育ビジョン「こういう学校になってほしい」「こういう子ども達を育てたい」が校長個人のビジョンで終わってしまっていないか。私のビジョンではなく、教職員、私達の共有ビジョンになっているか。学校教育目標と子どもの実態、目標と実態との間のギャップ＝課題となるが、駒寄はギャップを埋めるのは「かかわりの知」だと考え、コミュニケーション能力・課題解決能力・認め合う力を育てるのが大事だということに共有し、たてわり活動の充実に取り組んだ。
- ・該当校のいいところは一点突破、一事徹底で、「まず考えられるたてわりをやってみよう」から始めたところにある。「かかわりの知」を育てるためのたてわりをやろうと一丸となって取り組んだ結果、その他の必要なものも付随して育ってきた。
- ・今我々がやっている仕事は、何のためにやっているのか。根本のビジョンの所に立ち返って、それが組織として共有されているかどうかの視点でもう一度振り返ってほしい。